

地域の人の輪を寄せ植えから しょうばら花会議が講師を派遣

 **REPORT 4**

しょうばら花会議が各地域から花と緑の街並みづくりを推進し、美しい景観づくりに貢献しようと、寄せ植え講習会を企画する地域へ講師を派遣する事業に取り組んでいます。

秋国自治会が主催する寄せ植え講習会が行われた7月27日、しょうばら花会議は講師1人を派遣。講師を務めた斎木義伸さんは、参加者7人に寄せ植えのコツや肥料のやり方、枝葉の刈り込み方など、質問に答えながら一つ一つ丁寧に教えていました。

参加者は「とても楽しかった。今日習ったことを早速活

用したい」と声を弾ませていました。

秋国自治会の横山皓治会長は「集落の人が集まって楽しむことが大切。そこから輪を広げていきたい」と話していました。

しょうばら花会議では、ガーデニング、初心者向けの講習会へも講師派遣を行っています。詳しくは、しょうばら花会議事務局(☎0824-73-1178)まで。



▲講習会の様子

国定公園帝釈峡で涼を体感 帝釈峡ウォーク

 **REPORT 5**

深緑が心地よい国定公園帝釈峡で7月18日、「帝釈峡ウォーク」が開催され、広島県内をはじめ、岡山県や島根県から約160人が参加しました。

午前に行われたウォークでは、帝釈峡まほろばの里を出発し、国史跡「寄倉岩陰遺跡」や鍾乳洞「白雲洞」などを巡り、国天然記念物「雄橋」を折り返す『かわせみコース』と、神龍湖トレイルセンターまでの遊歩道迂回路を歩く『はんざきコース』にそれぞれ分かれ、清流のせせらぎを聞きながら石灰岩が織り出す自然の美しさや、帝釈峡の魅力に触れました。

午後から行われた野外コンサートでは、地元の演奏グループ「プラチナハート」のほか、東城中学校吹奏楽部

や新見ウインドアンサンブルの演奏が行われ、参加者は、芝生広がる広場で一緒にリズムを取ったり、口ずさんだりと楽しいひと時を過ごしました。

福山市から訪れた参加者は「ボランティアガイドの方の説明が分かりやすく、帝釈峡の魅力に触れることができた。また来年も訪れたい」と話していました。



▲ボランティアガイドから説明を受ける参加者

みんなでふるさとを美しく大切に 東城町内の保育所、小・中学校、高校が連携し清掃活動

 **REPORT 6**


東城町内の4保育所(小奴可、八幡、田森、東城)、4小学校(小奴可、八幡、栗田、東城)、東城中学校、東城高校が

連携し7月22日、東城町内を一斉に清掃する「東城クリーン大作戦」を実施しました。

清掃は、小奴可、八幡、田森、東城の地区ごとに実施。

東城地区では、保育所の年長から高校生までの約200人が、保育所、小・中学校の縦割りグループ10班に分かれ、東城支所前やJR東城駅周辺などを清掃。植木の下や川辺などに落ちているゴミを40分間拾い集めました。集めたゴミはその後、東城小学校グラウンドで分別作業を行いました。作業中には、中学生が園児と小学生の安全に気を配りながら、「ゴミ袋は重たいから僕が持つよ」などとグループをリードする場面も見られました。

集めたゴミの量を見た子どもたちは「こんなにゴミがあったんだ」「きれいになって気持ちがいい。楽しかった」と話し、達成感を得た表情と流れる汗が光っていました。

こどもミュージカル&グルメで庄原を猛アピール カープ公式戦で「庄原の日」

 **REPORT 1**


▲グルメコーナーも大人気

プロ野球公式戦広島カープ対中日ドラゴンズが行われたマツダスタジアムで7月31日、「庄原の日」と銘打ち、庄原こどもミュージカル出演と庄原グ

ルメの販売が行われました。

注目の始球式に、こどもミュージカルの東なみさん(東小4年)、清水唯花さん(庄原小5年)、早井すみれさん(口南小3年)が衣装を身に付け登場。試合開始前と5回裏終了時には、子どもたち66人を含む総勢108人が踊りを披露し、10月16日に公演予定の『しらゆき姫』をPRしました。カープのマスコット「スライリー」、庄原さとやま博のキャラクター「キョロやまくん」、中日のマ

スコット「ドアラ」も共演し、球場を楽しく盛り上げました。

出演した子どもたちは「たくさんの人から手拍子もらえ、とてもうれしかった」「広いグラウンドで踊れて楽しかった」と喜んでいました。

庄原グルメコーナーは、コンコースで庄原焼きの実演販売のほか、たこ焼き、親鳥の塩焼き、アップルパイ、スムージーを販売し、ほとんどが完売。たくさんのお客さんに庄原のおいしさを届けました。



▲スタジアムの芝生の上でキメポーズ！

核なき世界を誓い犠牲者を悼む 山内原爆犠牲者慰霊祭

 **REPORT 2**

原爆投下直後に臨時病棟が設けられた山内地区で8月6日、山内原爆犠牲者慰霊祭が行われました。

会場となった原爆慰霊碑には多くの折り鶴が飾られ、遺族や地域住民、山内小学校の児童など約100人が参列。原爆の犠牲となり同地区で亡くなった88人の冥福を祈りました。

主催した山内地区社会福祉協議会の菟原元樹会長が追悼の言葉を述べ、参加者は一人一人焼香していました。

慰霊祭終了後には、山内地区原爆被爆者の会主催で平和学習会が開催され、福島県双葉町の森田省一さんが、福島原発事故とその被爆者の実態について講演。参加者は脱原発の思いに共感しながら真剣に耳を傾けていました。



▲追悼の言葉を述べる菟原会長

士気を高め訓練に励む 庄原市消防団夏期教養訓練

 **REPORT 3**

庄原市消防団夏期教養訓練が8月7日、各方面隊で実施され、総勢約700人の団員が参加しました。

この訓練は、消防団員としての教養と規律を高めるために毎年実施されています。

庄原会場の開会式で上原清司団長は「われわれ消防団は、市民の生命、財産を守り、被害を最小限にとどめなければならない。日々の鍛錬に励んでほしい」とあいさつ。

団員は、厳しい暑さの中、庄原消防署員や県委嘱訓練指導員などの指導のもと、各個訓練、部隊訓練、分列行進などに真剣に取り組んでいました。



▲訓練の様子(庄原方面隊)

色鮮やかに舞うオオムラサキ 総領保育園児が観察会

 REPORT 10


総領町黒目の和田賢壮さんの自宅で7月4日、総領保育所の園児が国チョウのオオムラサキの観察会を行いました。当日、小雨が降るあいにくの天気の中、和田さんがオオムラサキ保護のために作った二棟のビニールハウス「保護センター」に足を踏み入れた子どもたち28人は、エノキの木を勢いよく食べる幼虫や、羽化前のサナギ、大きく羽を広げた成虫などを見つけると、「葉っぱをむしゃむしゃ食べている!」「キレイな色をしている!」などと興奮した様子で目を輝かせていました。

観察会の最後には、一人一匹ずつ成虫をそっと手で包み、「家にも飛んできてね」と言いながらハウスの外へ放しました。

オオムラサキが羽化する季節は6月から7月にかけて。運が良ければサナギからチョウになる姿が見られるそうです。



▲オオムラサキを放つ園児たち

白熱の攻防に声援が響く 高野地域ふれあいソフトバレーボールリーグ戦

 REPORT 11

今年で13回目を迎える、地域ふれあいソフトバレーボールリーグ戦が7月27日と8月2日の2日間、高野小学校体育館と町民体育館を会場に開催されました。

今春の自治振興区の再編に伴い自治会となった、町内の10自治会から18チーム約160人が参加、熱戦が繰り広げられました。

体育館内は厳しい蒸し暑さでしたが、選手たちは暑さを忘れ懸命にプレー。珍プレーや好プレーの続出に観客から大きな声援が飛んでいました。

参加者は「普段こうしたスポーツでの交流の機会が少ない。せっかくの機会なので頑張りたい」と大粒の汗を光らせていました。



▲懸命のアタック

電波の適正利用を楽しく学ぶ 比和公民館で電波教室

 REPORT 12


▲楽しく学ぶ子どもたち

夏休み中の子どもたちを対象にした電波教室が7月28日、比和公民館で開催されました。

参加した子どもたち11人は、電波適正利用推進委員の皆さんを講師に、身近な電波についてDVDで学習した後、電子ブロックを使って電気の面白さを体験しました。

電子ブロックは電気を楽しく学べる電子機器で、ブロックの配置や種類を変えることで光や音を発するなどの電子実験ができます。電子実験がうまく成功すると子どもたちから驚きや喜びの声が上がりました。また、ラジコンカーを操作し、混信障害についても学習。目には見えない電波について理解を深めました。

参加した子どもたちは「混信障害が起こることで正確な情報が伝わらず、危険だとわかった」と話していました。

森と水の大切さを五感で学ぶ アサヒの森で森林教室

 REPORT 7


▲針葉樹の前に説明を聞く児童たち

比和町古頃にあるアサヒの森(甲野村山)で8月4日、「森と水の学習会」が開催されました。

これは、アサヒの森林環境保全事務所と広島北部森林管理署が共催して行う事業で、今回で3回目、比和小学校5・6年生の児童26人が参加しました。

はじめに、森林管理署の方から紙芝居を使った森に関する説明を受けた後、山道沿いの樹木などの観察や写

真学習を行いながら約1時間かけて展望台を目指しました。

昼食時には、地元食材を使ったコウタケむすびをほおばりながら、古頃の八川俊治さんから地元食材について話を聞きました。

八川さんはさまざまな草を用意し、「子どものころには自然のおやつとして、カヤの皮をむいて食べていた」と実演。教わったとおりに食べた子どもたちは、初めて味わうカヤの不思議な味に驚いていました。

その後、丸太切り体験や木工教室も行われ、最後に児童代表がクリの木の記念植樹を行いました。

せせらぎとオルゴールの共演 第2回せせらぎコンサート

 REPORT 8

クラスターのまちづくり「音の里構想」の一環として7月30日、鮎の里公園で「第2回鮎の里せせらぎコンサート」が開催されました。

今回の奏者は、ギタリストで日本唯一のオルゴール作曲家の橋本勇夫さん、マンドリン奏者の政岡裕子さん、オルゴールオペレーターの世羅瞳さん。

池を利用し光の演出効果を高めた水上ステージに登場した3人は、橋本さんが口和をイメージし作曲した「森に祈る」など12曲を演奏。約250人の来場者はその美しい音色に酔いしれました。

まち実現プロジェクトワークショップ会長の三吉龍次

さんは「この事業を、口和の音を活用した「癒やし空間」と「新たな口和文化」の創造を目指し、喜びと感動を分かち合うことのできる事業として定着させたい」と話しています。

橋本さん作曲の「森に祈る」を収録したオルゴールが、口和町内で9月下旬ごろから販売される予定です。



▲コンサート風景

きれいな西城川を守り続けよう 西城・美古登小学校水辺教室

 REPORT 9

庄原市西城地区公衆衛生推進協議会は7月14日、自分たちの町の川に興味を持ち、環境について考えてもらおうと、西城町内の小学生を対象にした水辺教室を開催しました。

この日、午前中は西城小学校6年生の児童13人、午後からは美古登小学校の3～6年生までの児童39人が参加。西城郵便局周辺の西城川に入り、広島県環境保健協会の環境アドバイザーの指導を受けながら、5～6人のグループに別れ網やバケツを使って魚や水生昆虫を採取しました。

その後、すんでいる生き物から川の水質を調べるため、採取した生き物は学校に持ち帰り、参考書で名前を確か

めながら分類。水質を「きれい～大変汚い」までの4段階に評価する記録用紙に記入した結果、「きれいな水」と判定されました。

参加した児童は「身近な川に、自分の知らない多くの生き物がいて驚いた」「ずっときれいな西城川であるように、ゴミ拾いなど努力していきたい」と話していました。



▲夢中で捕まえる児童たち